教育広報
いるま
第51号
平成22年3月
題字：教育長　村　野　志　朗
編集：教育広報いるま編集委員会
発行：入間市教育委員会学校教育課
電話04−2964−1111（内4145）

「わかる喜びのあふれる学校を目指して」

平成二十一年度も残すところあとわずかとなりました。入間市教育委員会では、重点施策の一つとして「確かな学力の向上」を掲げ、本年度も学校教育をサポートしてまいりました。

一人でも多くの子ども達に「わかった。」「できた。」という喜びを味わってもらうため、学級を小集団に分け、きめ細かな指導を行う少人数指導、教科補助員の配置など指導方法の工夫を図ってまいりました。また、直接、授業を展開する教師の指導力・人間力の向上を図るため、経験に応じた研修会や最新の課題に対応した研修会等を実施してまいりました。

今回の教育広報では、特にそれぞれの学校における研修の様子を中心に紹介していきます。研修の充実は、魅力ある教師を育て、子ども達に確かな学力を身につけさせていくと考えています。

確かな学びをはぐくむ学習指導をめざして

―算数科の指導を通して―

入間市立豊岡小学校　校長　芦沢　文子

○一人ひとりの子どもを見つめる

校内研修を進めるに当たって、本校ではまず子ども達をじっくりと見つめることから始めました。

本校の子ども達は明るく元気な子が多いのですが、一人ひとりを見つめると個々に課題をもっている子もおります。そこで、学習指導だけではないことを全職員で確認し、埼玉県が取り組んでいる「教育に関する三つの達成目標―学力・規律ある態度・体力」の視点に立ち、子ども達を指導してきました。

規律ある態度の育成については、まず、あいさつを最重点課題として取り組みました。毎朝、本校の正門では校長以下職員、児童代表委員、五年生の有志「あいさつレンジャー」によるあいさつ運動が展開されています。年度当初、なかなか自分から進んであいさつができなかった児童も、少しずつあいさつができるようになってきました。その様子を代表委員児童や職員が給食時に放送し、学校全体であいさつ運動がもりあがってきています。

あいさつを終えた子ども達が次に向かうのは白いラインが引かれた運動場です。六年生を筆頭に多くの子ども達が朝マラソンに向かいます。ここ数年、朝マラソンをする児童が急増し、体育授業の充実も見られ、新体力テストの結果は着実に向上しています。

○算数科の指導を通して

学力では、算数科の研究に学年を主体に授業づくりに取り組みました。学習のルールづくりを全職員で確認し、課題提示・自力解決・意見交換（練り上げ）・まとめといった学習の流れを確立することができました。それにより、算数好きの子ども達が確実に増えています。授業中も各学級から子ども達の活気あふれる発表が数多く聞かれます。

全国学力調査や地区学力調査の結果から本校児童の学力が確実に向上していることが裏づけられました。全職員これに満足することなくさらなる向上をめざして努力を続けています。

確かな学びの力の育成のために

―一人ひとりの読む力を伸ばす指導法の研究（国語科）―

入間市立金子小学校　校長　田辺　暁己

本校では、平成二十・二十一年度の二年間、入間市教育委員会・入間市教育研究会の委嘱を受け、国語科の研究を進めてきました。「発達段階に応じた学び方」を身につけさせることによって読む力を伸ばすことができるとの仮説を立て、「物語文」の学習に焦点を当てました。

二年目となる本年度は、「発達段階に応じた学ぶ手順の確立」と「多彩な音読の活用方法」の明確化を目指し、研究を重ねました。

一　発達段階に応じた学ぶ手順の確立

①一時間の学習の流れの形づくり

全学年に共通する基本の学習の流れを設定しました。そのうえで、低・中・高学年の各発達段階を考慮し、系統立った三つの「学習の流れ」をパターン化しました。

②「読み取り」の具体的な方法

低学年では、サイドラインを引くだけでなく、動作化や吹き出しを活用しました。自分の考えを書きこむ「一人読み」、高学年では書きこんだことを話し合う「グループ読み」へと発展していきました。

③一時間の「まとめ」の方法

登場人物になったつもりで書く「なりきり日記」や俳句・短歌なども取り入れました。

二　多彩な音読の活用方法

様々な音読を、目的に応じて三つに分類し使い分けました。毎時間の学習の始めと終わりに必ず音読を取り入れました。

毎時間の学習の流れをパターン化することで、児童は見通しを持って学習に取り組むことができるようになりました。また、音読の日常化が図られ、どの児童も読みこなすことによって容易に文章が理解できるようになりました。今後も継続して実践し、読む力とそれを表現する力も伸ばしていきたいです。

研究・実践・実践・実践・実践・実践して

叙述に即して、豊かな読みができる児童の育成

ー国語科における基礎学力の定着・習熟を図るー

入間市立藤沢東小学校　校長　岡村　光章

研究主題について　「学力の向上」には、すべての学習の基礎である「国語の能力」の向上が欠かせないとの考えから、本校では文章を「読む力」の向上がすべての学習の基本ではないかと捉えました。そこで、国語科の「読むこと」の領域に焦点を当て、一人ひとりの「読む力」の育成を目指して、平成二十・二十一年度の入間市教育委員会・入間市教育研究会の委嘱を受け、研究を進めてきました。

研究を進める中で、説明的な文章よりも文学的な文章の方が思考力や想像力が広がり、自分の考えを持たせやすく、「豊かな読み」ができるのではないかと考えました。そこで、物語作品を通して、**「叙述に即して、豊かな読みができる児童の育成」**を研究主題として設定し、研究に取り組みました。

具体的にどのように豊かな読みを深めていくのかということで、二つの仮説を立てました。

仮説1「一人読みを確実にさせることにより、豊かな読みができるだろう。」

仮説2「話し合い活動を活発にすることにより、豊かな読みが深まるだろう。」

授業の実践　この仮説をもとに実際の授業では、**「一人読み」→「話し合い」→「まとめ」**の流れを取り入れ、全校で取り組んで指導法として統一して実践しました。それにより、

【一人読み】では、キーワードへのライン引き、書き込み、書き出しなどいろいろな方法に発達段階に応じて取り組み、一人ひとりの読みを深めることができました。

【話し合い】では、「つなぎ発言」を取り入れることにより、子ども達同士の話し合いに導くことができました。

【まとめ】では、児童の豊かな読みを「書く」という段階で、一人ひとりの思いを表現させることによって、より豊かな読みにつなげることができました。

子どもが生き生きと輝く魅力ある授業の創造

ー児童理解を通した生徒指導が機能する学習指導ー

入間市立藤沢北小学校　校長　加藤　孝義

藤沢北小学校では、学校生活のほとんどを占める授業を魅力あるものにしたいと、平成二十・二十一年度と、市教育委員会、市教育研究会の委嘱を受け『子どもが生き生きと輝く魅力ある授業の創造』ー児童理解を通した生徒指導が機能する学習指導ーを研究主題として、授業実践に取り組んできました。

教職員は、『子どもが主役、子どもが輝く藤北小』を合い言葉に、一人ひとりの児童を大切に育て伸ばす授業の創造に日々努力してきました。子どもたちが、授業の中で、できないことができ、わからないことがわかる体験を大切に日々の授業づくりに取り組んでいます。本校では

不登校児童もなく、子ども達が毎日明るく元気に登校しています。

また、学校では、好きな授業があり、その教育活動の中で将来の夢や目標に向かって毎日学んでいます。

特に、一人ひとりの児童の実態が把握しやすい算数科、国語科、体育科での研究授業を多く実施してきました。

その学年で身に付けなくてはならない基礎・基本をしっかりと定着させ、『自分の生活に役立てることができる力』として活用できるように、一人ひとりの児童を大切に育て伸ばしていきたいと考えています。

生きる力みなぎるあずっ子

ー学ぶ楽しさが味わえる算数科の学習を通してー

入間市立東町小学校　校長　齊藤　芳久

本校では、確かな学力を定着させることで、東町小学校の全児童が個性を伸ばし、生きる力を身に付けられるようになると考え、授業実践を通して取り組みました。

また、平成二十三年度に完全実施となる新学習指導要領を見通した教材研究を進めてきました。算数科では以下の三つが改訂のポイントです。

①発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による指導の充実

②国際的な通用性、内容の系統性の確保など、必要な指導内容の充実

③「算数的活動」を指導内容として学習指導要領に規定

児童の実態と改訂のポイントを踏まえ、問題解決学習を通した授業実践を全学級で行ってきました。

一年目の研究は、主に自力解決段階に焦点を当てて、取り組みました。自力解決段階の指導では、児童への的確な支援が重要です。まず「よい問題」を用意し、児童が多様な方法で解決できるように工夫しました。次に、問題に取り掛かれない児童へは、小集団指導といって黒板のところへ集め、教師が一緒に考えるといった手法で問題解決の糸口をつかませました。このようにして、児童が自力で解決できるようになりました。

二年目の研究は、主に練り上げ段階に焦点を当てて、取り組みました。練り上げ段階の指導では、自力解決によって得られた自分の考えと友達の考えを比較できるようにすることが重要です。まず、「練り上げ構想図」を用意し、児童が目的をもって話し合いができるようにしました。次に、意図的な指名による発表をさせ、それぞれの考えの価値を全体で味わえるようにしました。

この研究を通して、確かな学力を身に付けていったため、算数を学ぶ意欲を高め、学ぶことの意義や有用性も得ることができました。

今後もさらに児童の生きる力を育成していきたいと思います。

「学力向上タイム」の取り組みを通して

入間市立向原中学校　校長　大室　重喜

「学力向上タイム」とは

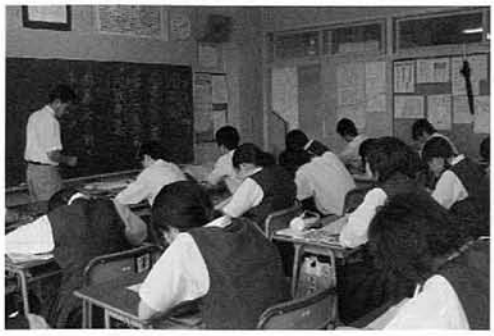
「学力向上タイム」とは、確かな学力の定着を目指して、本校独自に取り組んでいるものです。

具体的な取り組みとしては、月・水・金曜日の週三回で、帰りの会前の十分間です。教科は国・社・数・理・英の五教科で、基本的に二週間で一教科ずつ行っています。一教科二週間で六回の実施の中で、五回は演習、最後の一回はテストを実施しています。内容は、既習の中から基本的なものを、十分でできる量（十問程度）で、教科によっては繰り返し練習するような工夫もされています。また、プリントは教師がすべて手作りで作成し、生徒は毎回、自分のファイルに綴じていきます。テストはそれまでに出題されたプリントから実施してますので、学力に不安のある生徒でも、毎回の取り組みをしっかり行っている生徒は、確実に点数をとることができます。

より確実な学力の向上を目指して

今までも多くの改善を加えながら続けてきた学力向上タイムですが、生徒がより真剣に取り組めれば、という反省から一昨年度よりテストを取り入れ、成績にも加味することにしました。こうすることにより、定期テストでは、すぐに成果が表れない生徒でも、学力向上タイムでは、努力した結果がすぐに表れるため、意欲的に取り組めるという生徒の声が多いです。また、学習の仕方も、プリントを参考にして家庭学習に取り入れているという生徒も出てきました。

生徒の確かな学力の定着がさけばれている昨今、今までの成果を踏まえつつ、一方で、現状に満足せず、改善を加えながら、この「学力向上タイム」を本校の特徴のひとつとして大事にしていきたいと思っています。



ようこそ ぼくらの加治丘陵へ

東金子小学校

本校は、加治丘陵という豊かな自然に囲まれた、入間市で一番高い所にある学校です。毎年、各学年で地域の自然・人・文化・産業などを題材に学習をしています。

三年生は、年間を通して宝の山である加治丘陵へ探検に出かけ、四季の変化を感じながら様々な感動や驚きに出合い、それを伝え合う活動をしています。図工では、そこで見つけた「ねんど」を使い、壁飾りを作ります。削り取った土を乾燥させ木づちで砕き、ふるいにかけてできた土の粉に少しずつ水を加えてこねていきます。そして二週間、水と粘土の一粒一粒が馴染むのを待ちます。こうして苦労して作り上げた粘土から、加治丘陵での思い出がいっぱい詰まった作品ができ上がります。六年生でもこの粘土を使い、卒業制作をします。ふるさとの大地から生まれた、まさに手作りの卒業記念品は一生の宝物になることでしょう。

地域に根ざした特色のある教育活動

地域に根ざした特色ある教育

狭山小学校

本校では立地条件等を生かした教育活動を実施しています。

一つは農業体験です。農園は学校に隣接し全学年の児童が実施しています。

児童は種蒔き、除草、水やりを行うなど繰り返し世話をします。収穫した小麦を石うすで挽いた小麦粉から手打ちうどんを作ったり、自分達で育てた米と大豆を使って味噌をつくったり給食の食材としても使っています。

次に、近隣施設との交流です。入間市博物館・東野高校・大妻女子大学等の各施設の特色を生かした交流を毎年深めています。

また、敬老会・地域の団体等の人達と協力し、本校の実践目標「明るく挨拶する子」「よく働く子」「人に親切にする子」を目指した活動にも取り組んでいます。

これらの活動を通して自分達の郷土に愛着をもち、郷土の食文化を守り伝えていく心など豊かな心の育成を図っています。

地域との絆

東金子中学校

本校では、毎年、二年生の取り組みとして職場体験を実施しています。今年は九月二日から三日間、地域の事業所や福祉施設、公共機関などのご協力を頂いて活動しました。どの職場でも、生徒は初めての体験だけに、緊張の面持ちで真剣に取り組んでいました。

十一月には、江戸時代から地域に伝わる新久ばやしの保存会の皆さんに講演をしていただきました。この日は、保存会で活動している十数名の本校生徒も出演し、日頃の腕前を披露してくれました。

お囃子の歴史、楽器や衣装についてなど、会長さん達のわかりやすい講話を聴き、全校の生徒は郷土の再発見ができたようです。

子ども未来室とは…

瞳が輝く「入間っ子」の育成を目指して、乳幼児から中学生までの、入間市に育つ子どもたちの確かな育ちと学びを実現し、一人一人の自立を総合的に支援していくことを目指しています。平成22年度からの段階的な実施を目指しています。

子ども未来室の主な事業（今後の予定を含む）

関係機関の連携（子ども未来室検討委員会）
企画課･障害福祉課･児童福祉課･親子支援課･生涯学習課･学校教育課

子ども支援

遊びと学びの手引きの活用

小学校入学前の12月からの4ヶ月と入学後の5月までの2ヶ月の期間に、「遊びと学びの手引き」を活用し、「育ちと学び」の滑らかな接続を目指します。

保育所（園）・幼稚園への巡回支援・巡回相談

臨床心理士が、市内の幼稚園、保育所（園）を巡回し、一人一人の発達に応じた保育、教育ができるように保育士･教諭と個別の手だてについて考えていきます。また、気になるお子さんの支援方法についてアドバイス等を行います。

系統的な通級指導教室の開室

お子さんと個別に関わり、コミュニケーション能力を高めたり、感情のコントロールをしたり、生活をしやすくしていくための支援をしていきます。

教諭･保育士等支援

研修会等の実施

「よき教育はよき教師をもって始まる」子どもたちの育ちと学びを保障する教諭･保育士等、指導者としての資質と力量の向上につながる研修の充実を図ります。

親支援

親の学習講座の開催

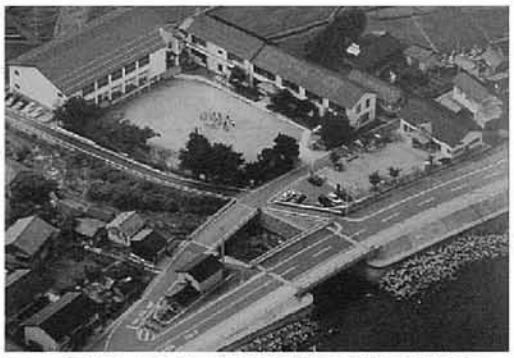
3歳児、4歳児、5歳児の親を対象に講座を開催します。子育てについての「How to」や先人の子育ての姿から親のありようを学びます。

姉妹都市交流について

あゆみ

昭和６１年（１９８６年）１０月１２日　新潟県両津市と入間市の姉妹都市提携を行った。
昭和６２年１１月　両津市立水津中学校と上藤沢中学校との間で絵画等の交換を始めた。
昭和６３年　１月　両津市立馬首小学校と豊岡小学校との間で絵画、作文、習字等の交換を始めた。
昭和６３年　７月　豊岡小学校一行３９名が、馬首小学校への訪問を始めた。
平成　元年１０月　上藤沢中学校一行４０名が、水津中学校への訪問を始めた。

※毎年絵画等の交流を行い、隔年ごとにお互いを訪問し合ってきた。
その後、市町村合併、学校統廃合により、豊岡小学校は佐渡市立加茂小学校との交流を行い、上藤沢中学校は佐渡市立前浜中学校との交流を行ってきた。


両津市立馬首小学校（当時の学校の様子）

佐渡市立前浜中学校（現在の校舎）

ねらい

・教育、文化等各般にわたる交流を通じ相互の理解と親善を深める。
・青少年同士の交流を図り、異なった文化や習慣を知り、認め合う心を育む。

佐渡市での交流活動

すいかわり

一夜干しするめ作り

歓迎会

入間市での交流活動

歓迎会

ゲームで楽しく

生徒会の歓迎交流会

いつまでも、ずっと・・・

平成２１年７月　前浜中学校一行が上藤沢中学校を訪れ、２２年間に渡る児童・生徒が訪問し合う交流会は諸事情により終了しました。これまで交流会に参加した児童・生徒には、貴重な体験となったはずです。これからも姉妹都市として、いつまでも心の交流を続けていきたいものです。

「ホッタラケの島」舞台を訪れて
―歩いて地域を知る試み
宮寺地区

牧歌的な風景―のどかな眺め

低い山並みとゆるやかな起伏は八王子市恩方町の夕焼け小焼けの里山を想わせます。似た町並みも、日本昔話と童謡の世界をほうふつとさせます。茶畑、杉木立、小動物の出現等も。

出雲祝神社は、金子茶畑内の三輪神社と配置や沿革が似ている感じもします。参道の北側に社務所があり、本殿は東向き。古墳か島のように小高い位置にあり、こんもりとした木立に囲まれているのも共通点。三輪神社は伊勢神宮と関わり、出雲祝神社は出雲大社と関連があります。出雲祝神社のいわれによると二千年程前からの歴史があるそうです。

昨夏の映画「ホッタラケの島」で全国放映により、狭山茶と並んで入間の里のよさが再確認されたようです。

所沢トトロの森、入間宮寺「緑の森博物館」、「夫婦道」の狭山茶、「つばさ」の川越。お茶と緑と民話等に共通点がありそうです。

二千年の由緒ある神社。不老川という縁起のよい名前。瑞穂の国(町)と宮寺という地名の不思議さと気高さ。

四季の眺めの豊かさ―桜の春、黄緑の野山の五月、緑茶、夏木立名月と紅葉の秋、雪の原の眺め等。そして、秀峰富士を眺められる展望の豊かさ。不老不死(不二)に通じる理想郷かもしれません。

市内や近隣に住みながら、宮寺方面に足を伸ばす機会が少ない方、何かの折に訪れてみてはいかがですか。一度訪れたら、とても、ほったらかしてはおけない気持ちになります。

出雲祝神社境内

グッドにゅうす

子ども人権フォーラム　参加感想

上藤沢中学校　二年　岡崎　友里さん

私が携帯電話やパソコンを使い始めたとき、家族でルールを決めました。話しているときは表情や声で相手の気持ちがわかりますが、文章ではきつくなってしまうことがありますし、相手がどう受け取ったかもわかりません。だから、いつもより言葉に気をつけるということでした。今回のお話を聞いて、私はこのルールを守れていただろうかと、考えさせられました。最近は少しルーズになっていたような気がします。そのせいで、友達に嫌な思いをさせてしまうことがないようにしたいです。

もう一つ、心に残ったことがあります。それは、こういったマナーを守れないことで起きてしまうネットいじめです。今までのいじめは、相手も時間も特定されていましたが、ネットいじめはいつでもどこでも起きてしまうのです。相手が誰かもわからないので、怖いのだろうと思います。軽い気持ちで噂や悪口を書いてはいけないと改めて感じました。

みんながマナーを守り、相手のことを考えることができれば、いじめは無くなると思います。私もマナーを守れるようにしたいです。

＊平成二十一年十月二十八日、さいたま市文化センターで行われた「埼玉県子ども人権フォーラム」の、ネットいじめをなくそうという趣旨に基づいて書かれています。

全国ベスト8
金子中　女子バスケ部

笑顔いっぱいの部員たち

平成二十一年八月に行われました全国中学校バスケットボール大会にて、入間市立金子中学校女子バスケットボール部が、準々決勝まで駒を進め、見事ベスト8という輝かしい成績を収めました。

編集後記

「新」という世相の漢字でしめくくられた昨年でした。今年は、昨年のような、急激なインフルエンザの流行がないように祈っています。明るい話題の多い年としたいものです。